

Company data

代表

岸本 二三子

大阪府堺市出身。ケアマネージャーとして多忙な日々を送っていた2006年にうつ病を発症。3年間の闘病の後、2009年4月に自らの経験をもとに、心の病に苦しむ人のケアを行うゆめそう訪問看護ステーションを立ち上げた。

Personal data



## 心の病に真正面から向き合い いつも寄り添える看護を続ける

秋川 主に心の病気で苦しむ人への訪問看護事業に取り組まれているとか。代表ご自身もうつ病の闘病経験をお持ちだそうですね。

岸本 はい。ケアマネージャーとして某市役所に勤務していた頃に発病し、その後約2年間ほとんど寝たきり状態でした。でも3人の子供を育てるために何とか動き始めなければと思った時、同じようにうつ病で苦しむ人の力になりたい。もっと言えば、「私にはもうこれしかできない」と思ったんです。

秋川 よく新しい方向へ勇気を持って切り替えることができましたね。

岸本 ある方とお話をさせて頂いたことがきっかけになりました。元気だった頃の自分を思い出し、早く元に戻りたいとか、なぜ治らないのだろうと思うばかり

りだったのですが、薬を服用しながらでも社会復帰し、自分ができるところをしていけばいいのではないかと、考えを切り替えてみたらとても楽になりましたね。1人で開業の準備をして、2009年4月にスタートしました。

秋川 大変な道のりを乗り越えてこられたことが伝わってきます。私も25歳の時にうつ病と診断されて以来、ずっと服用を続けていますよ。特に症状が重い時のどうにもならない気持ちはよく分かります。周囲から怠けていると誤解されることも多いですね。辛い時期もありましたが、自分がうつという病気を受けとめられるようになった時、家族も理解してくれるようになりました。うつ病は心の風邪という表現が使われるようになってから、社会でも少しずつ理解が広がっ

ていますよね。

岸本 うつ病の患者さんは、分かってくれる人が傍にいてくれることが何より安心につながります。外出もままならず、日常の最低限やらなければならないことがなかなかできないのがうつ病の症状の特徴ですから、訪問型の看護が向いているんですね。患者さんにとっては、今日は看護の人が来る日だと思えば、お布団を片付けて、洗顔をする、それが良い刺激になることもあります。看護する側は「頑張って」「元気出して」というより、「いつでも傍にいるよ」「ゆっくり治そうね」という姿勢が最も重要ですね。

秋川 うつ病の患者さんの訪問看護を主体にしている事業所は稀少でしょう。そんな中で人とのつながりを重ね、事業そのものの流れが良い方向を向いていると感じます。考えてみると、無駄な経験はどこにもないですね。代表がうつ病になったからこそ分かったこと、見えてきたこと、たくさんあるでしょうね。

岸本 はい。周りに多くのうつ病に苦しむ患者さんがいる現実を知ることができました。これからも皆が心を寄り添うことのできる事業所でありたいと思います。そして、温かい気持ちを持って、優しい看護ができるスタッフが増えてくれることを願っています。

Guest Comment

秋川 リサ (女優)

病気を受けとめ、乗り越えてきたからこそ、同じ病で苦しむ患者さんの心により一層近づけるのだと感じました。時にはしんどいこともあるかもしれませんが、そんな時は私の「何とかなるわよ」のひと声を思い出してくださいね(笑)。

